

学級活動指導案

東 広 島 市 立 竹 仁 小 学 校
指導者 教 諭 順田 幸子 (T 1)
養護教諭 瀬尾 仁美 (T 2)

- 1 日時 平成27年12月 7 日 (月) ～平成27年12月15日 (火)
- 2 学年 第5学年 (男子 3人 女子7人 計10人)
第6学年 (男子 1人 女子5人 計6人)
- 3 題材名 「自分も相手も大切にしたコミュニケーションにチャレンジ！」

4 題材について

(1) 児童の実態

所属校の第5学年及び第6学年の児童は、学習面において意欲的に取り組む児童が多い。また、生活面において、優しく思いやりのある児童が多く、下級生の面倒をよくみる姿が見られる。しかし、友だちと意見がぶつからないよう周りに合わせ、自分の思いを言おうとしなかったり、言わなくても分かってくれるだろうという依存的な態度から自己表現をしようとしなかったりする児童がいる。そのため、自己主張が必要な場面で自分の思いを表現することができないため、児童間に誤解が生じることもある。

さらに、コミュニケーションに係る事前アンケートの結果から、対人関係で感じている摩擦や争いの度合いにおける項目について、第5学年及び第6学年の6割の児童が友だちとの葛藤場面でストレスを感じることがあるという傾向が見られた。

(2) 題材設定の理由

公益財団法人日本学校保健会（平成23年）が示した「保健室利用状況に関する調査報告書」によると、保健室来室児童の相談内容では、「友達との人間関係」が「身体症状」の次に多く、人間関係づくりが苦手な児童が多いことから、健康教育においてもコミュニケーション能力の向上に努めていく必要があることが示されている。

このことを踏まえ、本題材は、小学校学習指導要領第6章特別活動に示されている学級活動の内容(2)「ウ 望ましい人間関係の形成」及び「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」を扱う。小学校学習指導要領解説特別活動編（平成20年）には、「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導内容について、望ましい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れるとともに、指導の際には、児童が現実の生活の中で自主的、実践的に望ましい人間関係を築こうとすることができるよう配慮することが示されている。また、「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」については、心身の発育・発達、心身の健康を高める生活など、児童が自分の健康状態について関心をもつための活動があり、指導の際には、取り上げた内容について日常生活で具体的に実践できるようにすることが示されている。さらに、思春期にさしかかる高学年の時期は、心身ともに大きく変

化する時期であることから、人間関係や健康安全に関する悩みの解消などを重視するとともに、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるようにしたり、自分に自信をもち、よさを生かし伸ばして生活できるようにしたりすることが大切であると示されている。これらのことを受け、本題材を設定した。

指導に当たっては、体育科の「G 保健」(1)「ア 心の発達」の学習した既習事項を想起させ、心は人との関わりで発達することを確認させ、よりよいコミュニケーションが大切であることに気付かせる。さらに、自分や相手も大切にしたい自己表現であるアサーション・トレーニングに係るロールプレイを通して、児童のコミュニケーションの課題意識を喚起するとともに、視覚教材を用いて適切な自己表現が自他の心により影響を与えることを理解させる。また、思春期に起こりうる葛藤場面を想定したロールプレイを取り入れ、自他の気持ちやよさに気付かせたり、適切な自己表現の仕方を身に付けたりできるようにする。そして、本題材を通して身に付けたスキルを用いて異年齢や地域の人との交流によって、スキルの定着を図り、振り返りカードで自己の変容を捉えさせることで、人と関わることに自信をもたせ、コミュニケーション能力を育むこととする。

5 指導のねらい

自分や相手の気持ちに気付き、適切な自己表現の仕方を考えるとともに、異年齢や地域の人と交流する体験活動を通して、身に付けたコミュニケーションスキルを適切に実践しようとする態度を育成する。

6 学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

7 指導と評価の計画(全3時間)

時	学習内容	評 価				
		関	思	知	評価規準(・)	評価方法
事前	事前アンケートに回答し、望ましい人間関係を築いていくためのコミュニケーション能力を身に付けることを意識する。					
一	三つの話し方の違いを見付け、自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解する。 (アサーティブな考え方)			○ ◎	・三つの話し方(非主張的・攻撃的・アサーティブ)の違いに気付いている。 ・自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解している。	ワークシート 行動観察

二	関係を維持するためのコミュニケーションについて考え、話し合う。 (関係維持のアサーション)		○		・関係を維持するためのコミュニケーションについて考えている。	ワークシート 行動観察
三	葛藤場面におけるアサーティブな自己表現を考える。 (問題解決のアサーション)	○			・アサーティブな自己表現をしていこうとしている。	ワークシート 行動観察
事後	事後アンケートに回答し、望ましい人間関係を築いていくためのコミュニケーション能力について、振り返りと自己評価を行う。					

8 本時の展開

(1) 第一時 「三つの話し方の違いを見付け、自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解しよう」

① 本時の目標 三つの話し方（非主張的・攻撃的・アサーティブ）の違いに気付く、自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解することができる。

② 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）		評価規準 〔観点〕 (評価方法)
	T 1（担任）	T 2（養護教諭）	
1 課題意識をもつ。 ・事前アンケートの結果を基に、人とのかかわる場面での課題を焦点化し、課題意識をもつ。 課題 「自分の気持ちをうまく伝えるためには、どのような話し方をしたらよいのだろうか。」 ・三つの話し方を見て、気付いたことを発表する。 【例】Aは、上手に断れていない。Bは、きつい。Cは、自分の思いをはっきり言えている。 2 本時のめあての確認をする。 三つの話し方の違いを見付け、自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解しよう。	◇四コマ漫画の1～3場面を提示し、T 1とT 2が四場面をロールプレイする。(A：非主張的，B：攻撃的，C：アサーティブ) ※シナリオは「別紙資料1」に表示する。	◇思春期の心の発達について保健学習の内容を振り返るとともに、事前アンケートの結果を知らせることで、人とかかわり方について課題意識をもたせる。 【発問】宿題を写させてほしいと頼んでくる友達への断り方で、三つの話し方にはどのような特徴があるだろうか。	

3 三つの話し方をペアでロールプレイし、それぞれの話し方で言われた時の気持ちをワークシートに記入する。 4 三つの話し方にどのような違いがあるかグループで考え、発表する。	◇三つの話し方をペアでロールプレイさせ、それぞれの話し方で言われた時の気持ちをワークシートに記入させ、発表させる。※聞く、話す役割を交代させながら、ロールプレイをさせる。 ◇A～Cの話し方のタイプを紹介し、それぞれどのような言い方をしているか違いを考えさせ、違いについてグループで話し合い、発表させる。	◆ロールプレイの進まないグループに寄り添い、ロールプレイができるよう言葉掛けをする。	三つの話し方（非主張的・攻撃的・アサーティブ）の違いに気付いている。【知識・理解】ワークシート・行動観察
【例】Aは、弱い感じ、自分のことを言っていない。Bは、一方的、強い言い方。Cは、柔軟。 5 三つの話し方のうち、どの話し方がよいか考え、発表する。	A：おどおどタイプ B：いばりやタイプ C：さわやかタイプ ◆三つの話し方のタイプは、話し方の違いを分かりやすく表現したもので、この学習のために使う名前であることを伝える。 ◇三つの話し方のうち、どの話し方がよいか考え、発表させる。	◇気持ちスケールで三つの話し方の話す側と聞く側の気持ちの違いを確認させ、自分も相手も大切にしたい話し方のよさに気付かせる。	
6 本時のまとめを行う。 振り返りカードに、今日のまとめを書く。	◆記述が難しい児童には、個別に助言する。	◇「いろいろな感情をもっても良いこと」「感情が体に及ぼす影響」「非主張的、攻撃的、アサーティブな話し方による周りへの影響」について説明する。	自分も相手も大切にしたい話し方のよさを理解している。【知識・理解】ワークシート・行動観察
児童のまとめ例 私は三つの話し方があることが分かりました。話し方で相手の気持ちが変わることが分かりました。私は、相手の気持ちを傷付けないように気を付けて話していきたいと思いました。			
7 今後の目標をチャレンジカードに記入する。	◇本時を振り返らせ、次時につなげる。		

- (2) 第二時 「『もちつきふれあい交流会』で、自分も相手も大切にしたい話し方を考えよう。」
- ① 本時の目標 人との関係維持のために必要なアサーティブな自己表現を考えることができる。
- ② 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て (◆)		評価規準 〔観点〕 (評価方法)
	T 1 (担任)	T 2 (養護教諭)	
1 前時の学習を振り返り、4コマ漫画のセリフを考える。 【例】 あの消しゴムは、大切に使っていたんだよ。だから無くなると悲しい。これで2回目だよ。	◆セリフが考えられない児童には、前時の4コマ漫画を提示し、前時を想起させる。 ◇昨年度の「もちつきふれあい交流会」の写真を提示し、自分たちのコミュニケーションの課題を発見させる。	◇三つの話し方の掲示資料を提示し、前時を想起させ、貸した消しゴムを無くされた場面で友だちにどのように話したらよいか4コマ漫画を活用し、セリフを考えさせる。 【発問】昨年度の「もちつきふれあい交流会」を振り返り、自分たちは地域の方とどのような話し方をしていたか考えよう。	
2 昨年度の「もちつきふれあい交流会」を振り返り、課題を発見する。 課題 『『もちつきふれあい交流会』で、自分も相手も大切にしたい話し方は、どんな話し方だろう。』			
3 本時のめあてを確認する。 「もちつきふれあい交流会」で、自分も相手も大切にしたい話し方を考えよう。			
4 「もちつきふれあい交流会」の四つの活動場面で、地域の方にどのような話し方ができるかグループで話し合い、ワークシートに記入し、発表する。	◇「もちつきふれあい交流会」の四つの活動場面(A～D)の写真を提示し、グループごとに、活動場面における話し方を考えさせる。 A：自己紹介の場面 B：餅つき、丸めて配る場面 C：試食の場面 D：片付け、解散の場面	【発問】「ふれあいもちつき交流会」の四つの活動場面で自分も相手も大切にしたい話し方を考えよう。 ◇自己紹介の意義を伝える。 自己紹介は、自分のことを知ってもらうための挨拶と同じくらい大切な行動である。	

【例】 A 自己紹介の場面：今日のもちつきを楽しみにしていました。よろしくお願いします。 B 餅つき，丸めて配る場面：丸め方を教えてください。楽しいです。 C 試食の場面：おいしいです。お餅は何を付けて食べるのが好きですか。竹仁のよいところはどこですか。 D 片付け，解散の場面：今日は一緒に食べることができてうれしかったです。来年もよろしくお願いします。	◇各グループから出された話し方から，人との関係維持に必要なアサーティブな自己表現に下線を引き，アサーティブな自己表現に気付かせる。 挨拶をする，気持ちを伝える，質問する，お礼を言うなど。	◇質問は，「はい」「いいえ」で答えられる質問から始めると自分も相手も話しやすくなり，次に相手が自由に答えられる開かれた質問をすると相手のことをよく知ることができることを伝える。	関係を維持するためのコミュニケーションについて考えている。 【思考・判断・実践】 ワークシート・行動観察
5 各グループから出された話し方をグループでロールプレイし，話し方以外に気を付けることを見付け，発表する。	◇話し方のロールプレイをさせ，言葉以外にも気を付けることがあることに気付かせる。	◇挨拶，感謝，質問などの話し方は，相手との関係を維持するために必要なコミュニケーションであり，「あなたのことを気にかけています」という相手を思いやる話し方であることを説明する。相手や自分の心が元気になること，お互いの関係がよくなることについて再認識させる。	
【例】 ・顔を上げて相手の目を見て言う。 ・笑顔で言う。 ・相手に聞こえる声の大きさで言う。 ・身振り，手振りを交える。 ・うなづく。 6 「自己紹介に付け加えるなら」のカードの裏に，地域の方への話し方，相手に自分の気持ちが伝わるようにするために気を付けたらよいことを記入する。 7 本時のまとめを行う。 昨年の「もちつきふれあい交流会」での自分の課題を踏まえ，今年度，自分が頑張ってみようと思う目標を決め，チ	◆机間指導をしながら，カードに記入ができているか確認し，記入が出来ていない児童には，黒板の下線があるポイントから記入するよう促す。 ◇「もちつきふれあい交流会」の目標を考えさせ，チャレンジカードに記入させる。		

チャレンジカードに記入する。		◆目標を決めかねている児童には、具体例を挙げるなどの支援を行う。	
8 本時を振り返り，振り返りカードに記入する。	◇自分の気持ちと相手の気持ちを意識した話し方について，分かったことを振り返りカードに記入させる。	・自分の気持ちを伝えられるように話しかけたい。 ・質問をしたことがないので，質問をすることをがんばってみようと思う。 ・相手に聞こえる声で話してみようと思う。	
児童のまとめ例 私は感謝の言葉を掛けることで，相手が元気になり，自分もうれしくなることが分かりました。「ふれあいもちつき交流会」では，試食の時間に地域の方に聞こえる声で質問をしたり，感謝の気持ちを込めて「お世話になりました。ありがとうございました。」と話をしてみようと思いました。			
		◇保健朝会で低・中学年の児童に自分も相手も大切にした話し方を紹介させ，全校で地域の方をもてなそうとする意欲を喚起する。	

(3) 第三時 「自分も相手も大切にした話し方を意識して生活していこう。」

① 本時の目標 日常生活の中で，アサーティブな自己表現を用いて友だちと関わろうとする意欲をもつことができる。

② 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（◇） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）		評価規準 〔観点〕 (評価方法)
	T 1（担任）	T 2（養護教諭）	
1 今年度の「もちつきふれあい交流会」を振り返り，課題を発見する。	◇自分も相手も大切にした話し方についてできたこと，努力したができなかったことをペアで話し合わせ，発表させる。	◇写真を提示しながら，「もちつきふれあい交流会」での地域の方の感想などを交え，肯定的評価を行う。	

【例】 ・少し緊張して話しかけられなかった。 ・初対面だったからはずかしかった。 ・話が思い付かなかった。 課題 自分も相手も大切に した話し方ができるよう になるためには、どうすれば よいのだろうか。 2 本時のめあてを確認する。	◆話し合うことが難しそうなペアには、「もちつきふれあい交流会」の場面を提示し、話しかけようとしたがうまくできなかった理由を考えさせる。 ◇日常生活の中のコミュニケーションを振り返らせ、緊張感や恥ずかしいといった気持ちは、誰もが抱きやすい気持ちであることに気付かせる。 ◇普段から自分も相手も大切にした話し方ができていると相手や場所が変わった時でもできることに気付かせる。	【発問】今年度の「もちつきふれあい交流会」を振り返り、自分も相手も大切に した話し方ができなかったのはどうしてなのか考えよう。
自分も相手も大切にした話し方を意識して生活していこう。		
3 箱の中から四つの葛藤場面の4コマ漫画の一つを選び、ペアでセリフを考え、ワークシートに記入し、ロールプレイをしながら発表する。	◆4コマ漫画のセリフを考えることが難しいペアには、三つの話し方の掲示資料のセリフから考えるよう促す。	◇日常で起こりそうな四つの葛藤場面における4コマ漫画のセリフをペアで考えさせる。 ①掃除中に掃除をしない人に対して注意をする時。 ②自分の持ち物を悪く言われた時。 ③遊びたいことが違う時。 ④助けを要求されたが、すぐに行けない時。 ◇「私メッセージ」「自分の気持ちを正直に表現す

4 これまでの活動を振り返り、新たな目標を決める。 5 本時のまとめを行う。 これまでの学習を振り返り、分かったことをワークシートに記入する。	◇これまでの活動を振り返らせ、できるようになったことをワークシートに記入させる。	る」「相手の気持ちを考える」ことが自分も相手も大切にしたい話し方であり、問題が解決しやすく、お互いの関係がよくなることについて再認識させる。 ◆目標を決めかねている児童には、具体例を挙げ決めさせる。 ◇できるようになったことを発表させ、自己の変容に気付かせるとともに、これからは自分も相手も大切にしたい話し方をしようとする意欲を喚起させる。 ◇3時間の授業を通して分かったことをワークシートに記入させる。	アサーティブな自己表現をしている。 【関心・意欲・態度】 ワークシート・チャレンジカード
児童のまとめ例 私は友だちに自分の気持ちを伝える話し方をしたら、自分の気持ちも分かってもらえてうれしかったです。自分の気持ちを伝える大切さが分かりました。これからは自分の気持ちを伝えていきたいと思います。			

【事後の活動】

○アサーティブな自己表現に関して、自分で決めた目標について一定期間の振り返りと評価を行う。